



私の旅

神護寺薬師如来と五大虚空蔵菩薩

はじめに

今まで旅をしてきた足跡、記録。

寺社仏閣、仏像やお墓をメインに、綴っていただけたらなと思います。

複数本作れるのかはわかりませんが、一冊目は神護寺をメインに綴りたいと思いました。

今回は薬師如来と五大虚空蔵菩薩に触れます。

旅行記として写真でゆるーりと紹介したかったのに、

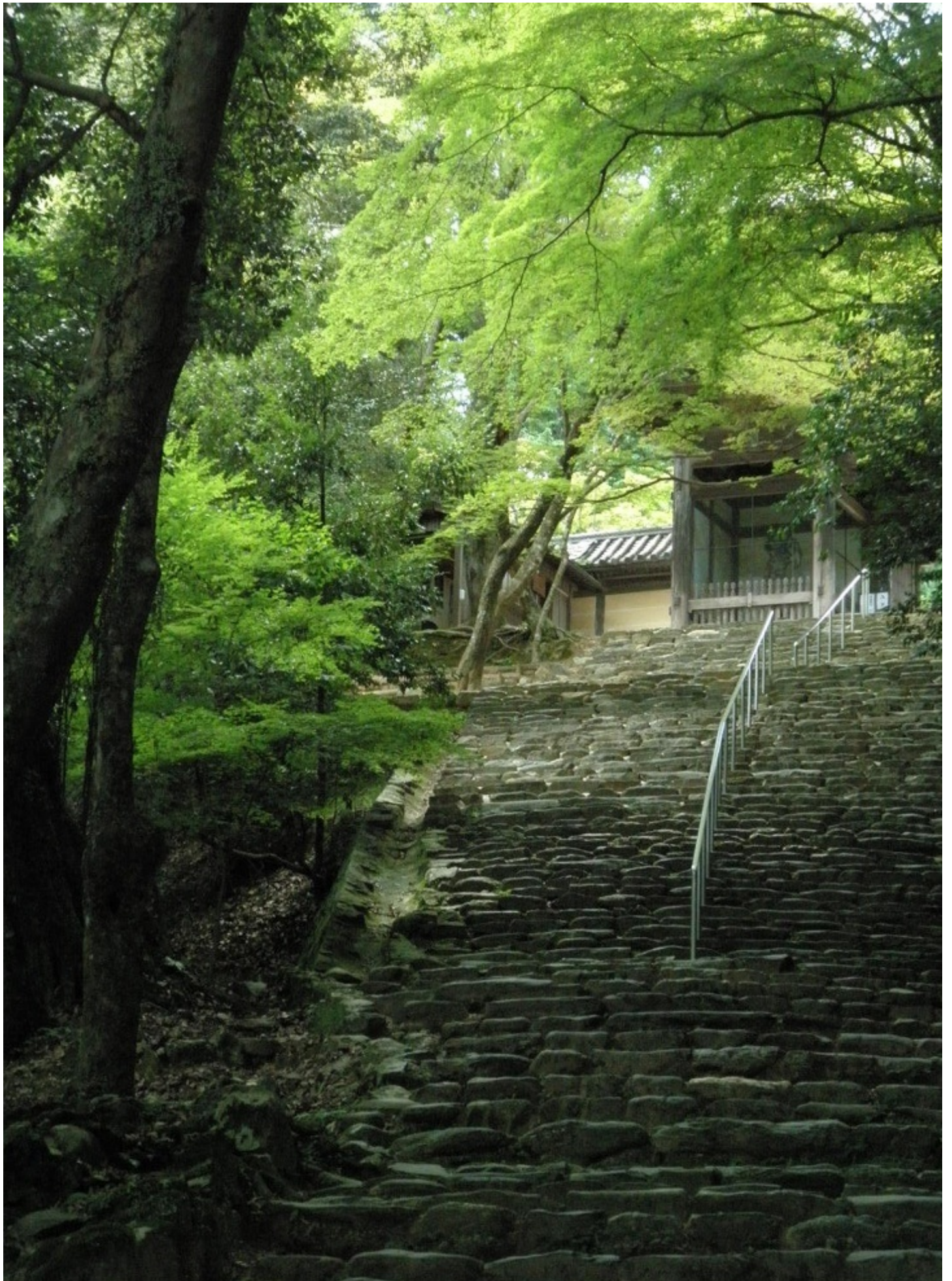
しょっぱなから真面目な仏像のお話になってしまいました。

なるべく分かりやすいように書いたつもりです。

過去に調べたものを掘り起こしに手を加えたものです。

浅学な故至らない文章、知識ではございますが、読んで頂ければ幸いです。

よっこ



神護寺楼門 持国天と増長天がならぶ

かわらけ投げ



売店では「厄除け」という文字が描かれたかわらけが2枚100円で売られています。
これを錦雲溪が眺められる高台から、下の清滝川まで飛ばすことができれば、願いが叶うという
ものです。



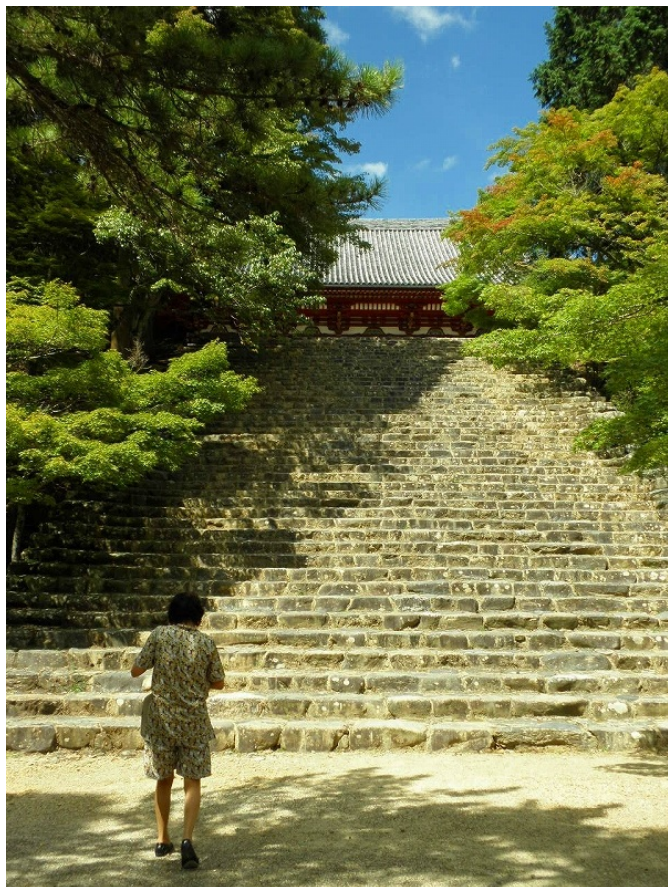


金堂の後ろ、楼門側の脇道を登ってゆくとお墓があります。

毘沙門堂



金堂への階段



神護寺について

京都市右京区梅ヶ原高雄街にある、高尾山真言宗の別格本山。山号は高雄山。

本尊 薬師如来 開基 和氣清麻呂

京都の洛西高雄に位置し、神護寺と言えば紅葉の名所。

清滝川にかかる高雄橋を渡り、先へ進んでゆくとやがて楼門が出迎えてくれます。

16世紀には狩野秀頼が「高雄楓風図屏風」を描いています。

境内には、和氣清麻呂や平家打倒の火つけ役とも言われるような文覚上人のお墓もあり、政治的歴史にも関係が深いお寺であるといえます。

元々は、本来この地に建っていた高雄山寺に、別に建っていた定額寺（特定の官寺）である神願寺と合併し、新たに高雄山寺が定額寺として誕生しました。

神護寺はよく天平時代貴族和氣清麻呂とかかわりが深いと言います。

奈良の都が終わる頃、奈良の大安寺の僧慶俊と言う人を本願主として和氣清麻呂が奉行となって愛宕山を中心に修行の道場が開かれました。周辺には寺がいくつか建立されたと言われていますが、盛衰に絶えて現存しているのは、この神護寺と月輪寺というお寺だけだそうです。都の遷都にあたって清麻呂は活躍しますが、延暦18年（799年）に67歳で死ぬと、この高雄山寺にお墓が作られて以後、和氣氏の菩提寺となってゆきます。

境内には和氣清麻呂の墓があります。

高雄山寺は和氣清麻呂（※1宇佐八幡神託事件で有名）、和氣氏の氏寺であり、延暦年中に和氣清麻呂が立てた神願寺は河内（大阪）にあったといえます。

この河内の神願寺※2から持ってきた薬師如来が今の神護寺金堂の本尊となって今に伝えられているわけです。

※1 奈良時代に道鏡が天皇位を得ようとして和氣清麻呂に阻止された事件

※2 神願寺があった場所は河内説、山背説、大和説、梶尾高山寺説とあるらしいが多くの本で河内説を使っている。



空海と最澄

その後は、高雄山寺で最澄が法会を開いたり、空海によってより密教のお寺にされていきます。

空海はこの寺に住んで新しい密教の修法をさかんに行いました。

空海は高雄山寺の機構を整えつつ活発な对外活動をし、さらにはより一層の格上げの為に、清麻呂によって高雄山寺が建立されたのとほぼ同じ時期に、同じく清麻呂によって作られた神願寺を合併しようと願い出ました。天長元年（824）にその願いは叶えられ、高雄山寺があった場所に新しく、「神護国祚真言寺」略して神護寺が誕生しました。

先ほど述べたように今現在、金堂の本尊として安置されている薬師如来立像は元々神願寺にあったもので、合併の時に持ってこられたものです。

また、その後に空海が亡くなった後には弟子たちによって五大虚空蔵菩薩が作られています。

最澄は清麻呂の子弘世と真綱に招かれて叔母の三周忌の法華公演を高雄山寺で行います〔延暦21年（802）〕。最澄が唐から帰国した直後にも、ここで密教の法会を開きました。

文覚上人

ここまでは、真言宗最初のお寺としてごく盛り上がっていて、地位的にも東寺や金剛峯寺と並んで権力のあるお寺でした。

ところが平安時代末期久安年間に、鳥羽上皇の怒りに触れて一時壊滅の状態になってしまいます。原因は分からないのですが、平家物語（「平家物語」巻五文覚）では、「本尊薬師如来を風雨にさらすのみで他の寺宝は持ち出され、堂も壊される」ということが書かれています。

そこで、約20年後、仁安3年（1168）30歳の文覚がここに訪れて再興を決心。文覚は元は、遠藤盛遠と言う鳥羽法皇の院庁に仕える武士でした。承安3年（1173）には、後白河法皇の元へおもむき、復興の為の資金を請うが認められず暴言を吐いて、伊豆に流されてしまいます。

文覚は同じく同時期に伊豆に流されていた源頼朝に平家打倒を口添えして、打倒が成功した折には、神護寺再興の援助をすることを頼朝と約束したそうです。

後、文覚が死んだあとは上人の意志をついで弟子の上覚上人と明恵上人（上覚上人の甥）が再興に尽力していきます。

多宝塔の脇の道を登ってゆくと、文覚上人のお墓があります。

2 薬師如来について



薬師如来立像 国宝

・ 8世紀末 木造 像高 170,6cm 一木造り 内刻なし

右肩を大きく衣端で覆う変則的な偏袒右肩衣。

左手は前膊の半ばより先が、右手は手首より先が後補。

特徴として、

1 右肩の内側から肘にかけて垂下する天衣状の衣が珍しい

平安前期の中村区地藏菩薩像や高恩寺薬師如来像にもこの形がみられ、源流は中国敦煌莫高窟の彩繪幡の地藏菩薩画像など西域系の図像からたどることが出来る。

2 股間に U 字を描き大腿部を強調する衣紋

U 字衣紋は唐招提寺の伝薬師如来立像にも見られ、この時期の如来像に見られる「型」で、盛唐期後期（8世紀半ば）の中国で流行していた。

3 厳しく威圧感のある顔

蒙古襞を強調する目とぐいと顎を突き出した顔。は見る者にも恐ろしさを与える。道鏡一派の一掃を願って和気清麻呂が建てたわけだが、薬師如来には奈良時代末期から平安初にかけては呪術的要素もあった。

薬師如来立像

日本の薬師信仰には3基におよそ分けられます。1期は飛鳥時代頃、文字通り健康や病気回復を、2期は平城京に新薬師寺が出来た頃で単に病気回復ではなく、病気は怨霊によるものと考えられ怨霊祓いを祈る。第3期は10世紀頃になると社会的に人々を恐怖に陥れる怨霊ではなくて、個人的な「もののけ」による祟りに変わる。すると、モノノケの調伏は薬師より不動や五大明王の役割になり、薬師は第一期の性格に戻ります。

この神護寺の薬師如来立像は第2期の怨霊の調伏に当たります。
この薬師如来には道鏡や宇佐八幡神託事件と関わりがありました。
八幡神託事件がどんなものだったという・・・

神戸景雲3年(769)、宇佐八幡宮より称徳天皇(孝謙天皇)に対して「道鏡が皇位に就くべし」との神託を道鏡が受けて、道鏡が天皇位を得ようとした事件。道鏡事件とも呼ばれます。

天皇は、その神託が本当かどうか確かめるため、最も信頼の置ける法均(和氣広虫。清麻呂の兄)を派遣しようと考えましたが、法均はこの時病弱でしたので、宇佐はなにぶん路遠く耐えがたきこととして、代わって和氣清麻呂が宇佐へ赴きました。

帰京後の清麻呂は、道鏡の言う神託は嘘であったと、天皇に報告したので、道鏡が天皇の位につくことはありませんでした。

その後、道鏡は下野国に左遷されます。道鏡は長年の功勞により刑罰を科されることはありませんでしたが親族庶人として葬られたようです。

この事件以外にも、この頃は頻繁に政治上層部で呪い呪われ、ということを繰り返していました。そんな社会を背景にして清麻呂は神願寺を建立したのですが、建立されたのは宝亀11年(780)で、この頃既に、道鏡は宝亀3年(772)ころに亡くなっているので、建立の目的には道鏡の怨霊と道鏡一派の呪祖の防衛が目的だったと言って良いのではないのでしょうか。

そんな目的をこめられた薬師如来像はとても厳しい、嫌な顔つきをしています。目には白と黒の彩色が施され切れ長の目から除く黒眼がまた気持ち悪さを増しているように思います。唇は赤、ひげは黒で塗られ、他は素地のままです。良く見ると、表面にはノミの跡が残っていてきれいに整えられてはいません。わずかにヒビも入っています。

この像は一木造りで内割はされていません。肉桂も大きく、頭も大きい、そして腕も太くて下半身太りのようなずんぐりとした体型です。全体を見た時に目が行くのはやはり目立っている太ももで、股間のU字型衣紋が特徴的です。同じく唐招提寺の伝薬師如来立像にも見られ、これはこ

の時期の如来像にみられる「型」で、盛唐期後期（8世紀半ば）の中国で流行していたようです。そして良く見ると太ももの衣紋線はすごく深く掘られています。

また、右肩の袈裟の下から垂れている、細長い帯状の衣も他にはあまり例の無いもので、横被と呼ばれるものです。仏像では他に2例ほどしかないくらい珍しくて、孝恩寺の薬師如来立像や中村区地藏菩薩立像があげられますが、むしろ仏像よりも僧形像の方がよく見かける形だそうです。怨霊を抑え込む願いが込められただけあって、ずっしりと、ねっとりした印象を受ける仏像さんです。

3 五大虚空藏菩薩について



五大虚空藏菩薩坐像 国宝 9世紀前半 木造乾漆併用彩色

檜一材 内列なし

像高	法界虚空藏菩薩	100,9cm
	金剛	101,4cm
	宝光	95,0cm
	蓮華	98,0cm
	業用	99,0cm

五大虚空藏菩薩は、空海が亡くなった翌年 836 年承和 3 年に、仁明天皇がこの寺の中に宝塔院を建てることを発願。840 年に工事し 845 年に完成。宝塔院の本尊として造られたもの。

五大虚空藏菩薩は五智如来の变化身とされる像で、空海の金剛智訳『金剛峯楼閣一切瑜伽瑜祇経』によれば、白（法界）、黄（金剛）、青（宝光）、赤（蓮華）、黒紫（業用）の虚空藏菩薩は五智如来に対応しており、五大明王にも対応している。現存像は昭和 10 年再建の多宝塔内に横一列に安置されているが、当初は法界虚空藏を中心にして周りをその他 4 つの虚空藏が囲んで配置されていた。

各像とも、両手を除いて面部や髪際上方の髻部ほか像前面を中心に乾漆を盛り上げ、剥落は多いが彩色文様（ただし後補）が施されている。

業用虚空藏の顔面が後補の錆漆で修正され、法界・金剛虚空藏の背面が補修されている。

各像の両手首以下（業用虚空像の右手除く）、垂髪、装身具、台座が後補。

五大虚空蔵菩薩坐像

次は、虚空蔵菩薩についてですが、これはさきの如来とは打って変わって優しくてなまめかしい印象の像です。神護寺の多宝塔に安置されています。

仁明天皇の願いで空海の弟子真斎が造営しており、造営の際に五大虚空蔵菩薩も像立されました。五大虚空蔵菩薩は、金剛界の五仏（大日如来、阿閼如来、宝生如来、無量寿（弥陀）如来、不空成就如来）が菩薩に姿を変えたものだと言われています。虚空蔵菩薩は変身をします。まず虚空蔵菩薩は法界虚空蔵菩薩に変化し、中央に位置します。そしてこの中央尊が4尊にさらに変化します。東には金剛、南は宝光、西に蓮華、北に業用です。これが先ほどの金剛界の五仏に対応します。

色の塗り分けの意味は分かっていません。今現在は一列に安置されてされていますが、当時は絵のように、輪を作って安置されていたかと考えられています。輪の通りに並べてみた場合、現状では蓮華と業用の位置が入れ替わっているようです。

五大虚空蔵菩薩というのは人々がみんな豊かになれるよう、災いを取り除き、幸福が訪れるように祈る密教秘法の本尊とされています。菩薩なので髪を頭の上で結いあげ、装飾品をたくさんつけています。

この像は皆、内刳は無く、右手の上膊部から膝の大部分まで檜の一木で作るというシンプルな構造です。表面は彩色の下地が厚くて、髪、顔、膝などは6ミリも盛られています。抹香や木の粉を漆で練り上げた「木屎漆」を盛り付けてあげています。そして白い顔料を前面に塗り、そのうえにそれぞれ5色の顔料がぬられています。899年に一度塗りなおされて、条はくや、裳にもきれいな文様が施されていましたが今ではほとんど分かりません。5体ともおよそ、1メートル程度の高さで法界以外は右手に鉤、左手に持物を持っています。宝冠や胸飾り、ひせんも後世の修理で復元、光背もなくなってしまい、台座も後補のものです。手首は皆後補ですが、業用の右手だけは当時のものでした。

この像と良く似ているとされるのが、大阪の勧心寺如意輪観音像です。如意輪観音像は空海の弟子真紹によって作られました。真紹は神護寺の「三絶の鐘」といわれる梵鐘も作っているので、神護寺と勧心寺と当時密接な関係があったのかもしれませんが。

観心寺如意輪観音坐像



年表

奈良末期 宇佐八幡神託事件

781天応元年 清麻呂神願寺を建立

平安 799延暦18年 清麻呂死す

802 21年 弘世が叔母の三周忌供養に最澄を高雄山寺に招き法華会を開く

804 23年 最澄、空海入唐

805 24年 最澄帰朝。高雄山寺において我が国初の灌頂檀を開く

806大 元年 空海帰朝

810弘仁2年 空海、高雄山寺にて、鎮護国家の為に修法することを奏す

823 14年 空海、東寺を賜う

824 15年 高雄山寺を定額寺とし、神護国祚真言寺（略して神護寺）となる

840承和7年 宝塔を建立し五大虚空蔵菩薩像を安置

899昌泰2年 宇多天皇行幸、五大虚空蔵菩薩像の彩色を改める

1145~1150久安年中 この頃急激に、神護寺が荒廃

1168仁安3年 文覚上人神護寺を参詣、再興を発願

以後 文覚、上覚、明恵によって再興

参考文献

- 『朝日百科・日本の国宝別冊 国宝と歴史の旅3 神護寺薬師如来像の世界』
朝日新聞社 1999,12,10発行 発行人:山本信
- 『古寺巡礼 5 神護寺』
淡交社 著者:林屋辰三郎、谷内乾岳 昭和51年1月20日発行
- 『魅惑の仏像19 五大虚空蔵菩薩 京都神護寺』
毎日新聞社 昭和62年11月15日発行 発行人:吉沢孝治
- 『魅惑の仏像24 薬師如来 京都神護寺』
毎日新聞社 1993,1,30発行 発行人:戸田栄輔
- 『日本美術全集5 密教寺院と仏像』
講談社 1992.8発行 著者:水野敬三郎他
- 神護寺のホームページ
<http://www.jingoji.or.jp/>

私の旅 神護寺と薬師如来と五大虚空蔵菩薩

<http://p.booklog.jp/book/80039>

著者：よっこ

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/qp3qp3/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/80039>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/80039>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパー（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社ブックログ